

令和5年度学校評価自己評価表(最終)

【校訓】 正直に生活し 進んで学び 人に害せず 自己を守り 人と社会のために奉仕する

【学校教育目標】 本校で学んだことに誇りをもち、高い志のもと「自立した社会人」として活躍できる生徒の育成

学校名 (廿日市市立廿日市中学校)

中期達成目標	短期経営目標	目標達成のための 方策	評価項目・指標	評価 方法	目標値	自己評価				学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策	
						中間 8月	最終 2月	達成度	評価			
10年後、20年後の将来を見据え、生徒の「思考力・表現力」「主体性」「自己有用感」を育む	A 学びの変革のさらなる推進	(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	①<個別最適な学び>【市共通項目】 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。」と回答した生徒の割合 【現状値】82.1%	生徒アンケート	全生徒の85%以上  85%以上 (R7年度)	89.8%	92.2%	108%	A	目標値を7.2ポイント上回りました。これは、授業でのICTの活用がより一層進み、教員が生徒一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するなどの「学習の個性化」を意識した授業改善に取り組んだ成果であると考えられます。	今後もさらにICTの活用を進め、教員同士が切磋琢磨しながら授業改善を行っているよう環境作りを行っていくとともに、生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるよう指導方法の工夫・改善に取り組めます。	
			②<協働的な学び> 「学校の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と回答した生徒の割合 【現状値】78.8%	生徒アンケート	全生徒の80%以上	88.6%	90.5%	113%	A	目標値を10.5ポイント上回りました。これは、ロイノート（授業支援アプリ）の導入により、個人の考えをまとめ、表現し、他者と共有することで、多様な意見を取り入れることができ、深い学びにつながりやすかったと考えられます。	今後も、ロイノート等の授業支援アプリを活用し、自分のペースを大事にしながらか共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動を積極的に取り入れます。また、研修の機会を随時設けることで、教職員のボトムアップを図っていきます。	
			③<ユニバーサルデザイン> 「ユニバーサルデザインの考えを生かした授業づくりを行っている」と回答した教員の割合 【現状値】88.0%	教職員アンケート	全教員の90%以上	92.0%	100.0%	111%	A	肯定的な評価が100%で、目標値を10ポイント上回りました。今年度は、校内研修の回数を多く設定し、互いの授業を見合い、研鑽を積み重ねる機会を多くとることができたことと、職員間での個別の意見交流が活発に行われていたためだと考えられます。	新年度、転任されてきた教職員が本校の研究内容を理解できるように、年度当初に早めに研修の機会を設けます。また、今後もさらに授業研究等を通して、授業力を高め合えるような雰囲気づくりをしていきます。	
	B 安全・安心な居場所づくり	(3) 不登校や問題行動への対応と未然防止	居心地のよい学級や学校を創る取組への価値付け	④<朝読書> 「朝読書を通して、落ち着いた朝の時間を過ごすことができている。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の80%以上	90.9%	89.3%	112%	A	目標値を9.3ポイント上回りました。8時20分から朝読書が始められるように、8時15分の入室を目指して、時間的なゆとりをもって登校できる生徒が増えています。	引き続き、生徒が朝8時15分には教室に入り、その日1日の学校生活の準備をする習慣を身に付けさせ、8時20分には落ち着いた朝読書が始められるように継続して指導していきます。
				⑤<清掃活動>【小中共通項目】 「清掃活動を通して、居心地のよい学校の環境づくりに貢献している。」と回答した生徒の割合 【新規】	生徒アンケート	全生徒の80%以上	94.6%	93.8%	117%	A	目標値を13.8ポイント上回りました。「気付き掃除」をした場所を週1回校内放送で共有する美化委員会の取組によって、主体的に掃除をする生徒が増えたと感じています。	引き続き、生徒会を中心に、生徒の主体的な活動の場を設定し、生徒の関係の中で評価できる取組を行っていくことで自律的な仕組みをつくっていきます。
				⑥<自己受容> 「友だちは、私のことを分かってくれている。」と回答した生徒の割合 【現状値】83.7%	アセス	全生徒の85%以上	81.7% 1回目	83.9% 2回目	98.7%	B	目標値を1.1ポイント下回りましたが、修学旅行や文化活動発表会などで、生徒が中心になって活動・活躍できる場をたくさん設定することができました。	今後も、教育相談などで生徒の気持ちを受容しながら、生徒を中心とした活動を設定して、誰かに支えられる経験を増やすとともに、生徒の活動をしっかり支援し、生徒の自己有用感を高める取組を進めます。
C 地域とともにある学校づくり	(4) 学校運営協議会の活性化	学校運営協議会における、学校の課題や目標の共有	⑨<情報提供> 「学校通信や学級通信、ホームページなどを通して、学校の方針や取組状況がよく分かる。」と回答した保護者の割合 【現状値】94.0%	保護者アンケート	全保護者の95%以上	90.1%	92.6%	97.5%	B	目標値を2.4ポイント下回りましたが、学校通信やホームページなどで、学校の方針や取組状況を継続して情報発信していますが、学校の方針が分かりにくかったり、タイムリーに情報発信できなかったりしたことが考えられます。	保護者のニーズを把握し、タイムリーな情報発信に努めます。また、学校の方針や取組を、見る側の視点に立って分かりやすく伝えられるよう工夫し、内容の充実を図っていきます。	
			⑩<地域貢献> 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」と回答した生徒の割合 【現状値】39.7%	生徒アンケート	全生徒の50%以上	77.4%	72.6%	145%	A	目標値を22.6ポイント上回りました。生徒総会で位置付けられた「地域活動部隊」のリーダーから地域貢献活動への参加の呼びかけを行い、それに応じる生徒が増えました。	地域行事に出席することは、教員にとって負担になっているのではないかと質問をいただきました。生徒のみで地域活動に参加する、生徒の活動を地域に評価してもらおう、学校はその評価を受け、次の教育活動を考えるといった取組が最も持続可能だと考えられ、その仕組みを構築するために取り組んでいることを伝えました。また、生徒が一生懸命、地域活性化に努めているので、ボランティア活動が負担にならないよう、ボランティアポイントなど、見返りのようなものがあるとよいのではといった意見をいただきました。	
			⑧<個々に応じた居場所づくり> 不登校の生徒数が全校生徒に占める割合 【現状値】5.8%	諸課題集計表	不登校率3.0%以下	2.8% 8月末	4.9% 12月末	61.2%	C	目標値を1.9ポイント下回りましたが、昨年度からの不登校生徒で、学校復帰した人数よりも新規で不登校となった人数が上回っています。人に会いたくない、勉強が人よりできない、登校する意義が分からないなど、敏感に自分の状況を捉えてしまう生徒が多い傾向があります。	不登校生徒に対する取組のテーマについての質問をいただきました。「全く登校できなかった卒業生（高校、大学では無遅刻無欠席、アルバイトもしている）と話をすると、どうしてもあんなとき登校できなかったのか自分でも分からないと言う生徒がほとんどである。だからこそ、いつでも登校できるように居場所づくりや学習支援がテーマになる。」ということをお伝えしました。	
D 働きがい改革	(6) 情報を共有し、組織としての教育活動	生徒主体の教職員のつばやきを大切にし、アイデア実現の可能性を検討	⑪<働きがい> 「組織の一員として働きがいを感じている。」と回答した教職員の割合 【新規】	教職員アンケート	全教職員90%以上	89.3%	81.0%	90.0%	B	目標値を9.1ポイント下回りましたが、教職員のモチベーションが低下している傾向が伺えます。日々の業務に追われ、十分なゆとりがなかったり、個々の良さが十分発揮できなかったりしたことが考えられます。	委員から、生徒だけでなく、先生同士が人を大切にする、助け合うといった見本を見せることが大切といった意見をいただきました。	

※「目標値」に対する「達成度」をA~Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)